

## 第2回忠岡町障害者施策推進協議会 議事要旨

○日時：平成29年11月15日（水）午後1時30分～午後3時

○場所：忠岡町役場3階 研修室1、2

### ○出席者【委員】

安藤 元博 泉大津市医師会代表  
是枝 綾子 忠岡町議会 福祉文教常任委員会委員長  
石原 廣二 忠岡町身体障害者福祉会会長  
益居 脩 忠岡町精神障害者家族会代表  
高見 晃市 忠岡町自治会連合会会長  
上ノ山 幸子 忠岡町社会福祉協議会会長  
勝元 芳夫 忠岡町民生委員・児童委員協議会会長  
鶴田 信也 忠岡町障害者施設代表  
井手 和代 公募委員  
田邊 みき 公募委員  
今川 和子 大阪府和泉保健所地域保健課長  
塩谷 謙二 大阪府立和泉支援学校校長  
東 祥子 忠岡町健康福祉部長

### ○欠席者【委員】

北野 誠一 NPO法人 おおさか地域生活支援ネットワーク 理事長  
樋口 早智子 忠岡町心身障害者（児）福祉会会長  
井下 知子 忠岡町エイフボランティアネットワーク副会長  
櫻井 忠司 忠岡町人権協会会長  
森 真規 泉州北障害者就業・生活支援センター センター長  
小川 英夫 大阪府立岸和田支援学校校長

### ○出席者【事務局】

和田町長、いきがい支援課 泉元課長、泉、田邊

### ○出席者【関係各課】

学校教育課 土居理事、子育て支援課 二重課長、保険課（保健センター）春日主幹、岩佐

○出席者【コンサル／福祉ょうせい】

西山

○傍聴者

なし

○案件

- ①アンケート調査結果について
- ②障がい福祉計画及び障がい児福祉計画の骨子案について
- ③その他

○配付資料

次第

資料 1 忠岡町障がい福祉計画・障がい児福祉計画策定に関するアンケート調査結果報告書【速報版】

資料 2 第 5 期しょうがい福祉計画・第 1 期障がい児福祉計画【骨子案】

○案件

①アンケート調査結果について

(資料にもとづく事務局より説明)

- ・委員：訪問入浴の利用は、週 1 回、月 4 回であるが、自宅の風呂を使える方はよいが、難しい方に対しては、衛生面を踏まえ週 2 回にできないか。
- ・委員：手帳を持っていない人など支援に結びついていない人がおり、行政のサポートがもっと必要である。
- ・委員（議長）：回収率は、44%（者）、33%（児）で、半数以上の人回答していない。もっと困っている人は回答できない人もいるので、行政のサポートが重要だということですね。
- ・委員：手帳所持者、発達障がい等で手帳を持っていない人の違いもあるかと思うが、サービスをどの程度利用しているのか。

←（事務局）：直近（平成 29 年 10 月）の利用者数は、各サービス別に積み上げると、延べ 233 人。

- ・委員：実人数はもっと少なくなり、中には必要だけ使えていない人や、情報がなく利用していない人もいると思われるので、支援体制を充実する必要がある。

報告書案の P33 に「経済的な負担が大きい」と回答した割合が高く、中でも難病の方での割合が高く、個々の家計状況の違いもあるが、忠岡町としては、現状・課題をどのように認識しているか。

- ←（事務局）障がい者年金を受給されている方もいるが、難病の方に対しては医療費に対する助成はあるが、現行制度のもとでは町独自に経済的支援をするのは難しい。
- ・委員：この障がい者福祉計画に関して、忠岡町では、経済的な負担の軽減や、紙おむつの支給など生活に必要な援助等の支援がほとんどないので、何かできることを検討してほしい。
- ←（事務局）地域生活支援事業である訪問入浴や紙おむつの支給にかかる経費は、国や府のほか、忠岡町の財政負担もあるため、検討していきたい。
- ・委員：報告書案P37、外出の際に自動車で送迎してくれるサービスなどの利用意向があるが、障がい福祉サービスとしては難しいとしても、NPOによるサービスや、地域福祉計画等でのサービス提供を検討できないか。
- ←（事務局）現在、社会福祉協議会による移送サービスがあり、無料で提供されており、住民の方から相談があった際には、紹介している。また、移動支援に関しては、例えば、ヘルパーが運転をしている場合、直接的な介助はしないことになるので、中抜きという形で支給決定を認めており、実際に利用していると思う。
- ・委員：制度を把握している方はそうした利用もしていると思うが、情報が十分でないという声も多いので、情報発信や相談支援を充実してほしい。
  - ・委員（議長）：アンケート結果をみると、サービスはあるが、それらを使うための情報が行き届いていないということが浮かびあがってきたのではないか。
- ←（事務局）福祉の手引等を作成し、周知はしているが、アンケート調査結果からは情報提供が課題であると認識している。

## ②障がい福祉計画及び障がい児福祉計画の骨子案について

（資料にもとづく事務局より説明）

- ・委員：障がい児福祉計画に関することで、医療機関等の関係機関等の連携が努力義務とあるが、学齢児の町立小中学校の現状と課題について教えてほしい。
- ←（事務局）医療と町立小中学校との連携ということで、現在のところ、医療的ケアが必要な児童生徒は在籍していないが、必要となった場合、医療機関や府教育委員会と連携しながら支援していきたい。
- ・委員：医療的ケアが必要な児童生徒は在籍していないが、発達支援が必要な児の場合、就学前の場合障がい児通園施設を利用していると思うが、学齢児の場合、泉大津の市民病院を利用していると思われるが、学校との連携についてどのようになっているか。
- ←（事務局／学校教育課長）発達障がいと配慮を要する子どもがいる場合、保護者の方とともに医療機関に相談等をしているが、教育という指導面以外は欠けている点もあるので、病院等との連携を強化していきたい。
- ・委員：あらたに児童発達支援センターの設置が求められているが、圏域での設置など、現時点

でどのように考えているのか。

←（事務局）現在、検討中であるが、町独自で設置できるかなどもあるので、圏域での調整も含めて検討していきたい。

・委員：自立支援協議会の機能強化が求められているが、協議会の現状と課題は。

←（事務局）泉大津と共同で設置しており、権利擁護、居住などの部会がある。頻繁に開催ができていないなどの課題があるが、権利擁護部会においては、差別解消法や虐待防止、また、本計画に対する意見もお願いするなど、強化を図りたい。また、医療的ケア児の支援などについても、自立支援協議会で諮れるかどうかなど泉大津市を協議中の段階である。

・委員（議長）：第4期計画と同様に、見込量を設定すると思うが、現時点での考えを聞かせてほしい。

←（事務局）既存サービスについては、毎年利用が伸びている現状を踏まえて設定をしたい。また、あらたになサービスについては、国や府からサービスの詳細や単価等が示されていない状況であるため、具体的な検討ができない状況である。一方で、府からは見込量の設定を求められており、11月中には単価等が示されるのではないかという情報も入っており、単価等が示された後に具体的な検討をする。

委員：福祉新聞等の記事では、現行制度のグループホームは、軽度が中心であるが、今後は重度の方も対応したものになるとの情報が入っている。現在、重度の方は、施設入所支援が中心であるが、グループホームに入居することにより、地域で生活する人が増えてくることになる。そのため、先ほどからの意見にもあるが、声を出せない人に対する支援にも目を向けていく必要がある。

委員：アンケートでは災害時の避難の問題について聞いているが、この結果を計画にどのように反映するのか。また、支援する側だけでなく、受ける側と双方が理解しあうためのマニュアルづくりとも必要だと思う。また、支援学校が福祉避難所としての位置付け等がされているのか。

委員：和泉市、泉大津市においては二次的避難所として位置付けられているが、学校の規模が小さいため、学校の生徒が中心で、他の方が利用するのは難しい。一方、地域の自治会とは協議会等で連携をしている。

←（事務局）先日の台風で、町では初めて避難勧告を出し、障がいのある人に対する支援を改めて考えていく。

### ③その他

・次回（第3回）開催日時は、1月17日（水） 午後1時～午後3時